

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.110
2015 SPRING

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News



特集

棚田にかける 青春

別府大学夢米棚田チームの挑戦

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／平成27年3月13日 印刷／佐伯印刷株式会社
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-67-0101
禁無断転載



LINE



真理はわれらを自由にする

学園祭レポート
石垣祭&秋桜祭
研究室訪問
学びのトビラ
クローズアップ別大生
卒業生インタビュー
こんにちは先輩!!
国際交流



「降り注ぐ」

後藤 詩織（文学部 国際言語・文化学科絵画コース 平成25年度卒業*）

いつ感じたかわからないけれど、たしかにそれは存在し、描きたいと思わせた。

光や風は曖昧なものではあるが、力強く私に降り注ぐ。

（130.3×162.1cm キャンパス、油彩）

※現在大分大学大学院教育学研究科修士課程 教科教育専攻2年在学中

未来のジブンを
見つけよう。



別府大学・別府大学短期大学部 オープンキャンパス2015

OPEN CAMPUS
4/26 SUN 7/20 MON 8/16 SUN
昼食無料

各学科の模擬授業やワークショップ、キャンパスツアー、入試相談コーナー、学生生活相談コーナーなどの企画が盛りだくさん。この機会に、大学でのキャンパスライフを体験しよう。

時間 9:30～受付開始

会場 別府キャンパス 大分キャンパス

お問い合わせ:入試広報課 TEL.0977-66-9666



青春

特集 棚田にかける



別府大学
夢米棚田
チームの
挑戦



高校までとは異なり、大学の学びや研究は広範囲で、学生自身の好奇心や探究心が必要不可欠です。また、地域の人々との触れ合いや助け合い、グローバルな課題解決など、社会と繋がっていくことも大学の学びの大きな意義です。棚田での米作りを続ける「別府大学夢米棚田プロジェクト」も、別府大学流のアクティブな学びのカタチ。キャンパスから飛び出し、座学だけでは得られない生きた体験を通じて学生たちが何を学び、どう成長していくのか。スマホを鞆に、ペンを鎌に持ち替えて、田んぼで楽しく奮闘する学生たちを紹介します。

別府大学アーカイブズ



新しい時代の到来
学ぶ喜びに満ちあふれた開学式



別府女学院開学式（1946年5月15日）

長い軍国主義の時代が終わって一年後の1946年に、別府大学の前身である別府女学院は開学しました。別府大学の初代学長、佐藤義詮先生が戦後、女子の高等教育機関として始めたのが、別府女学院でした。当時戦災を免れた別府市の鶴見園という施設で先ず各種学校の別府女学院を開学させました（この女学院は一年後に女子専門学校に昇格します）。写真はその開学式後の記念写真です。前列に先生方、そしてその後ろに百名近くの女学生がいます。彼女たちの中には、中国大陸や朝鮮半島から帰国した人々も多くいました。きわめて教育事情の悪い時期でしたが、彼女たちは初めて高等教育を受けられる喜びに満ちあふれていました。その雰囲気伝わってくるこの写真はまさに、別府大学の原点を表すものではないでしょうか。

Be-News NO.110 CONTENTS

※今号では、平成27年度の学年で掲載しています。

03	特集	棚田にかける青春 ～別府大学夢米棚田チームの挑戦～
08	学科からのトピックス	
12	学園祭レポート	「石垣祭」&「秋桜祭」
14	キャンパスボイス	テーマ／思い出Song（出会いと別れ編）
15	研究室訪問 学びのトビラ	文学部 人間関係学科 講師 石川須美子
16	クローズアップ別大生	松村昂さん （国際経営学部 国際経営学科 会計・税理士コース 平成26年度卒業） 下部綾子さん （短期大学部 専攻科初等教育専攻 平成26年度修了）
18	Be-Recipe	梨ジャムのロールケーキ
	別大生の御用達	さむらい
19	サークル紹介	剣道部、弥次喜多倶楽部
20	卒業生インタビュー	こんにちは先輩!! 九島崇さん （食物栄養科学部 食物栄養学科 平成23年度卒業） 小柳朋子さん （短期大学部 地域総合科学科 平成21年度卒業）
22	国際交流	母国に「別府日本語学校」設立、ゆかたのタペ
23	日高紘一郎理事長退任インタビュー	「九州学」シンポジウム報告

学生
×
米づくり

棚田で起こせ！ 出会いの 化学反応



端からローラー作戦で棚田を往復。残さず石を取り除く



日本古来の技術と知恵の奥深さ

始まりは
棚田の石積みから

学生たちが最初に取り組んだのが棚田の復元。県の職員から稲作の歴史や品種、栽培方法を学ぶだけでなく、棚田の機能や構造、施工方法も学習。そのうえで、安山岩の自然の形を生かして石を積み上げ、1.5mの段差を持つ4枚の棚田を築きました。昔ながらの石積みは予想以上に難しく、先人たちの知恵と技術の奥深さに改めて気付かされた体験でもありました。石積みができただけは、土に交じる石を拾っては耕運機で土をおこし、また石を拾う作業を繰り返してようやく完成しました。

大分が誇る
伝統産品の普及の助に！



美しい緑色は、使うほど味わい深い色に変化していく



七島蘭の歴史や商品化などについて考察し価値を再認識したシンポジウム

貴重な七島蘭
栽培にチャレンジ

米作りだけでなく、平成25年から、豊表の原料として使用される七島蘭の栽培にも挑戦中！国東市が国内唯一の産地で、七島蘭の文化を絶やさないために発足した「くにさき七島蘭振興会」の協力を得て、苗の植え付けから収穫、工芸品作りまで行っています。植え付けから3カ月で人の背丈ほどに育つ七島蘭は、自然乾燥させた後、加工し県農業祭や大学祭などで展示。

国東半島の伝統農業が、世界農業文化遺産に認定されたことが大きなキッカケとなり、七島蘭は再び注目を浴び始めています。昨年は本学で「現代にふがえる七島蘭」と題したシンポジウムを開催。夢米棚田チームも研究を発表し、伝統作物の価値を広くアピールしました。



大分農業文化公園の棚田で、農作業に励む学生たち。「別府大学夢米棚田チーム（以下、夢米棚田チーム）」のメンバーは、4枚の棚田から全ての稲を刈り取り、掛け干しを終わらせようと懸命です。今でこそ堂に入った鎌捌きで刈り取っていくツワモノもいますが、彼らのほとんどは、大学入学後この活動に参加するまで、農作業を経験したことがありませんでした。

米作りを通じて学生たちに食や農業に関心を持ってもらうため、別府大学と大分県、大分農業文化公園が協定を結び、平成22年に「別府大学夢米棚田プロジェクト」が始動。園内の棚田を活動の場にした全学的な取り組みは、今年で5度目の実りの時を迎えました。

田んぼを通して見る、
知る、感じることに

「別府大学夢米棚田プロジェクト代表」
食物栄養科学部長 江崎 一子



プロジェクトの代表で食物栄養科学部長の江崎一子先生は、「食の問題は奥深く、背景に様々な要素が関わっています。農村の過疎や環境問題など世の中で起きている事を知り、考えるきっかけになれば」と期待を寄せています。

学部を問わず、希望する学生は誰でも参加自由（何と現在の登録人数は180人！）。農村整備や水田に関わる県の専門職員に指導を受け、繁忙期には地元の農家の方が応援に駆けつけてくれます。土や稲、新しい友達や学外の大人たちなど、棚田で新鮮な出会いを経験するメンバーたち。青春の思い出を作って卒業する者、この活動をきっかけに各学部の専門分野で研究をまとめる者や進路を決める者など、それぞれの学生が人生の裾野を広げつつある夢米棚田チームです。



メンバー募集やPR活動も必須
チームの
活動を全国へ発信！

棚田で作業に精を出すだけでなく、秋の収穫後に続々と開催されるイベントへの参加も。別府市で開催される農林水産祭や本学の石垣祭（大学祭）は、日ごろの活動と成果を在学生や地域の人へ伝えるチャンスです。販売する調理品や展示品を準備したり、棚田での作業内容をまとめたパネルも製作。当日は交代で接客にあたり積極的にチームのことをアピールします。昨年は山形県上山市で開催された「第20回全国棚田サミット」へも参加。全国から集まった参加者へ向け自分たちの活動を紹介しました。



山形県上山市のみなさんと棚田見学へ



米粉のパウンドケーキやだんご汁などを販売

夢米棚田チーム
公式facebookはコチラ
<https://www.facebook.com/yumekome.tanada>



棚田活動発表会

12月



1年間の総仕上げ。学部ごとに研究内容を発表する緊張の時！

掛け干し



太陽の光で乾燥させながら、栄養を穂先に集中させる。おいしくな～れ！

脱穀



昔ながらの農具を使用して脱穀

11月

稲刈り



稲刈りは想像以上の重労働。改めて米作りの大変さを思い知ったけど、一番うれしい時でもある



農学部がない別府大学で米作り!?と驚かれることも

10月

七島蘭収穫



ぐんぐん成長する七島蘭の生命力にビックリ！

【その他】草取り

8月

草取り



真夏の太陽の下、汗をかきながら手を動かす。地味だけど豊かな実りのためには大切な作業だ

7月

米ぬか散布



減農薬栽培に取り組んでいるため、天然の除草剤である米ぬかを散布

田植え



はじめての土の感触にみんな大興奮！

種(籾)まき



昨年はもち米と緑米、香り米の3品種に決定

七島蘭の
苗の植え付け



【その他】
七島蘭ほ場の
草取り

四季の移ろいと共に農作業に精を出す学生たち。収穫後にはイベントや学校行事への参加、研究の準備などが続き、忙しくも充実した時間が過ぎていきます。

夢米棚田チームの一年

みんなで
打ち上げ

現役学生 & 卒業生
インタビュー

われら、棚田仲間

学年も学部も違うけど、共に棚田の青春を経験した二人。
活動に対する思いやエピソード、これからのことを聞いてみました。

卒業生

恩師の“引力”が
農の現場へ導いた。JAおおい 竹田事業部
野仲 隆太さん(大分県立竹田高校出身)
国際経営学部 国際経営学科 平成24年度卒業

「日曜日、暇？」と中川隆先生に誘われ、よく分からないまま草取りに出かけたのが始まりです。実家は米を作っています。が、それまで手伝ったことがなく田んぼ仕事は初めて。しかも実家と違ってこっちはほぼ手作業です。でも学部や学科、学年を超えて多くの学生と知り合い、一つの作業に取り組むことが楽しくて、

良い思い出になりました。選んだ学部と農業は繋がらないと思っていたし興味もなかったのに、先生の食料流通などの授業が面白くて、夢中で学ぼううちに棚田チームで米作りを経験。今はJAの職員として出身地である竹田の農業に関わっています。地元ということもあり、農家のおばちゃんたちに「りゅうちゃん」とかわいがっていたのですが



「国際経営学部の准教授・中川隆先生が人生を決めたと言っても過言ではない!」と野仲さん。先生の授業もフィールドワークも飲み会も大好きだった

現役学生

自分の成長を実感!
棚田から未来へ。平成26年度チームリーダー
高橋 義樹(大分県 昭和学校高校出身)
食物栄養科学部 発酵食品学科 4年

日程を組み現場で指示を出すだけでなく、経費の管理やイベント時の人員配置、販売用のラベル作成……。リーダーの仕事は多岐にわたり、この一年はなかなか忙しいものになりました。もちろん棚田では全員が頑張りますから、みんなが作業しやすいよう準備し気を配ることが自分の仕事。コミュニケーションが何より大事でした。県の担当者や種を売って

くださる農家の方など、外部とのやり取りも担当。最初の頃は敬語に自信がなく、電話一本かけるにも緊張していたほどです。リーダーとして奮闘する中で、現場全体を見ながら、先を見通した行動ができるようになりました。就職活動でもその後仕事をするうえで大きな自信になりました。名前すら知らなかった七島蘭との出会いで日本の



次の代のために活動内容を記録した「棚田ノート」。作業の進捗状況や打ち合わせの中身など詳細に記している

伝統産業に興味がわき、将来の進路として模索中です。チャンスがあれば挑戦してみたいです。



夢米棚田チームは、文学部、国際経営学部、食物栄養科学部の3学部の学生が、学部の垣根を越えて参加しています。農作業に携わりながら、それぞれの専門を生かした研究にも挑戦しています。

文学部

テーマ 高度経済成長と七島蘭

2013年5月、大分県の国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定された。その重要な特色の一つである七島蘭は、戦後期をピークに生産量が減少している。高度経済成長期以降の七島蘭栽培の変遷について検討し、夢米棚田チームとして七島蘭の活用策を提案。

史学・文化財学科 平成26年度卒業
加藤 真樹さん(右/宮崎県立日南高校出身)
白川 優太さん(左/山口県 高川学園高校出身)
※平成25年度チームリーダー

夢米棚田チームから七島蘭の後継者を輩出したい!

テーマ 近世の稲作社会と米経済

徳川幕府は、三河の片田舎の経済であった米経済を基礎に置く。そして、この米経済は幕府が崩壊するまで継続。不安定な米経済の中にあって、杵築藩は塩作りと七島蘭の生産を副業として行い、安定した経済を成立させていた。七島蘭の生産力の高さと杵築藩の経済力に注目。

史学・文化財学科 4年
檜垣 龍之介
(山口県 宇部フロンティア大学付属香川高校出身)

先輩に勧められ、このテーマに取り組みました

国際経営学部

テーマ なぜ今年は米が安いのか

2014年度の米の値段が暴落した。この米価が暴落した原因を探る。また、近年は消費者の米離れも米価下落の原因となっている。食料の安全保障の観点からみても、自国の農業資源を維持・保全していくことが重要な課題になっている。消費者の農業への関心を高め、米の需要を喚起させるための方策を提言。

国際経営学科 4年
池田 将吾(大分県 楊志館高校出身)

国産米を食べて、日本の食料自給率を上げよう

テーマ 水田農業政策の行方

安倍政権は2014年度から新たな水田農業政策を開始。生産調整の見直しの背景や新たに実施される水田農業政策について検討。水田農業をめぐる政策環境が大きく転換しようとする中、夢米棚田チームの活動の意義を考える。

国際経営学科 平成26年度卒業
中原 裕貴さん(佐賀県立伊万里高校出身)

競争原理が強められる中、日本の伝統、知恵の結晶である棚田を守りたい!

食物栄養科学部

テーマ 香り米焼酎の製造

夢米棚田チームで収穫した香り米(ヒエリ)を新規に有効利用する策として、「香り米焼酎」の醸造を試み、試行錯誤を3ヵ月重ねた末に完成させた。試飲会による官能検査では、香りに独特の癖が認められたが、市販品に近い高い評価となった。

発酵食品学科 平成26年度卒業
都甲 香織さん
(福岡県立輝翔館中等教育学校出身)

この研究を後輩に託し、ぜひ商品化してほしいです

テーマ 緑米について

2014年度、夢米棚田チームでは、古代米の一種である「緑米」を栽培。緑米は縄文時代に中国から伝わったとされ、全国でも生産量が少なく「幻の米」とわれている。その特徴や栽培方法、おいしく炊くコツを調査。緑米のおにぎりを作り、試食も行った。

食物栄養学科 3年
田口 智子(右/大分県立大分鶴崎高校出身)
北川 桃子(左/大分県 大分国際情報高校出身)

緑米は全国でも生産量が少なく、「幻の米」といわれています



オリジナルのミサンガとピアス

七島蘭工房 ななつむぎ

資料館「七島蘭学舎」にて、制作体験(草履やコースターなど)や工芸教室(土曜日開催)を行っています。

【お問い合わせ】
TEL.090-9409-0632(岩切さん携帯)

夢米棚田チームが七島蘭で草履や円座を作る時、学生たちの指導にあたったのが、本学卒業生である岩切千佳さんです。最初は手の怪我のリハビリや気分転換で始めたはずが、素材の魅力にハマり、円座など従来の工芸品の他アクセサリーやオブジェ、衣装など、自由な発想で作品を生み出す七島蘭作家に成長。また、自分で栽培をしたり、昔ながらの「浜干し」を復活させるなど、七島蘭の可能性を信じて挑戦する毎日です。七島蘭が描かれた映画「蜩ノ記」では、くさき七島蘭振興会が小道具の提供などで協力。岩切さんも花菓座作りの演技指導や他の工芸士達と協力し、劇中で使用する円座や花菓座を制作。また、俳優陣と共に出演する活躍振りでした。「可能性を秘めた素晴らしい素材ですから、多くの人の目に触れ、使ってもらえるよう、現代のニーズに合わせた作品作りや仕掛けを考えていきたいです」。

伝統の
世界に
飛び込んだ卒業生

七島蘭の魅力、伝えます。

七島蘭工房 ななつむぎ
認定工芸士
岩切 千佳さん
(文学部 美学美術史学科卒)

01. 勇気でGO!GO! 笑顔があふれるカーニバル

短期大学部
初等教育科

第5回わくわくフェスティバルが大成功!

初等教育科は、石垣祭と同じ日の11月1日に「わくわくフェスティバル(通称「わくフェス」)」を開催しました。今年も、実行委員を中心とした学生が、企画から広報や運営など、時間をかけて一生懸命に取り組みました。今回で5回目を迎えた「わくフェス」のテーマは、『勇気でGO!GO!笑顔あふれるカーニバル』となっており、テーマの通り、子どもたちや学生たちの笑顔があふれるカーニバルとなり、今年も成功裏に終えることができました。

今回は、例年の会場と違い、広い新体育館だったため、初等教育科のイベントの一つである、「造形展」との合同開催とし、学生たちが授業で作った作品を展示することができました。11月のわくフェスの開催にあたり、6月に実行委員を募り、広報係、会計係、クラス企画係、音響係、会場装飾係などに分かれ、約半年間懸命に準備をしてきました。広報係は、近隣の幼稚園・保育園・小学校や実習園にご案内を届け、子どもがたくさん参加してくれるようお願いをしました。前日は会場の装飾と並行して、リハーサルも行い、音響係とクラス企画係も夜遅くまで汗を流しました。会計係も裏方として、予算作成やお金の管理など、すべての工程を学生が主体となり、わくフェスの成功に向けて努力しました!

当日は、色とりどりの風船が浮いている会場で、魚釣りゲーム、空気砲コーナー、おしゃべりに変身(コスチュームで写真撮影)コーナー、ぬりえコーナー、絵本コーナー、乗り物コーナーでたくさんの子どもたちが遊びました。



また、ステージでは、エプロンシアターやパネルシアター、オペレッタ、寸劇、おもちゃ作り、人形劇、ダンスなどが繰り広げられました。特に、ダンスになると学生も子どもたちも大ハシャギ!流行りの「ようかい体操」などを踊って、会場のボルテージはマックスに上がっていました!

ご来場いただいた方の中には、県外からの参加者もあり、子どもと保護者合わせて200名を超える参加があったのも、学生のがんばりに尽きると思います。参加者の感想として、「楽しかった」「まだ、遊びたい」と言う子どもたちの声や、「楽しいステージ発表でした」と保護者の方から、多くのありがたい感想をいただきました。来年も子どもたちの笑顔が見たいので「わくわくフェスティバル」を続けていきます。



「造形展」では恒例の風揚げ大会に向けて制作した立体風や大型風を展示



02. 学生発!13研究室が 研究成果を発表

第13回史学研究会学生部会研究室発表会

史学・文化財
学科



古代から近代まで幅広い分野を発表しました

これまで、研究室の発表会は11月初旬の学園祭のときに開催されていましたが、去年の第12回から学園祭とは切り離して行われるようになりまし

ます。研究活動とサークル活動を兼ねている学生も多く、別個に開催して欲しいという声が強かったからです。今回は昨年11月15日と16日の2日間にわたって行われました。現在研究室は13あり、それぞれの研究室が1年間の活動がこの日に発表することになります。準備が大変で1週間前から放課後に発表のシミュレーションを行います。このような準備のおかげで、当日の発表はパワーポイントを用い、とてもよく整理されたものでした。このように学生だけで行う活動は、社会人になって大いに役立つ経験となるでしょう。

03 「利用者と向き合うことの 大切」をテーマに実習

人間関係
学科

社会福祉士・精神保健福祉士平成26年度実習報告会を開催



それぞれのテーマで取り組んだ内容を報告

発表者は、「利用者と向き合うことの大切さ」や「利用者を理解すること」などのテーマで、実習を通して学んだことを発表しました。実習指導者からも意見をいただき、社会福祉士、精神保健福祉士の仕事について深く考える貴重な時間となりました。

11月26日、人間関係学科実習報告会を開催しました。今年度は、3・4年生で社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得を希望する計17名が夏休みに実習を行いました。そのうち、社会福祉士の実習を行った4名(伊東真一さん、宮崎友莉さん、姫嶋幸司さん、藤原麻衣さん)、精神保健福祉士の実習を行った3名(久保川瑠衣さん、木村典介さん、塩田智博さん)の計7名が実習報告を行いました。当日は、実習受け入れ施設・機関の実習指導者11名をお招きし、人間関係学科の学生と教員、約170名が出席しました。

04. 地域密着!杵築市のお祭りで、 村に触れる

比枝神社の秋季大祭に参加

国際経営
学科



神輿を担ぐことで、地域の連帯感を実感

11月23日、勤労感謝の日、杵築市大田小野の比枝神社の秋季大祭に参加しました。大田小野地区では現在でも農作物の収穫に感謝する祭事を毎年続けており、学生は地元の方と餅つきをしたり、神輿を担いだりと大忙し。

今ではこのような風習が残っている地区は数えるほどとなり、学生は初めて担ぐ神輿の重さに顔をしかめながらも、日本の「村」というものを体験していました。

日頃の授業で聞く「過疎化」「限界集落」などの言葉が、実際に諸問題を抱える農村部での体験を通じて理解できたことは、大きな財産になりました。今後も経営学をグローバルとローカル、双方の視点から学んでいきたいと思っています。

05 減塩からあげ大好評!! 200食完売

食物栄養
学科

九州食の大宴会@別府2014に出店



おそろいの法被でがんばりました!

「学生さんもよく工夫しておいしくできている」と、とても好評で、予定していた200食を完売しました。

11月15日、16日に開催された別府発のイベント「九州食の大宴会@別府2014」。九州の各地の食材・郷土料理・食文化など、食をテーマにしたまちおこし地域活性化の活動を、別府から九州・全国に発信することが目的です。

普段お店で食品やいろいろなお料理を提供しているプロの方ばかりの中に混じって出店した食物栄養学科の商品は「中津減塩から揚げ」食の大宴会バージョン。BeNews前号で紹介した平成26年『ご当地かるしおレシビプロジェクト2013』(S11g(グランプリ)大会)で、「だし・うま味賞」を受賞したメニューに、ごぼうやトマトなどの大分県特産品を追加し、さらにうま味を増した、スूप仕立ての自慢の一品です。

06

発酵食品
学科

チーズ検定 見事全員合格！

チーズのプロを目指してがんばれ！



講習会で出された『クロタン・ド・シャヴィニヨル』は、フランスのロワール地方で作られる。熟成に従って（数ヵ月）黒カビに覆われる（写真右）ため、『シャヴィニヨルの“馬糞”』という名前が付けられたとか。見た目とは対照的に、熟成すると味はマイルドになりコクが生じます。パリっ子はオープンでアツアツに熟してサラダにかけていただきます



『Comrade of Cheese』認定証をもってハイ、チーズ！

古く紀元前から世界中の人々に愛されてきたチーズ。その種類は1000以上にのぼるといわれています。チーズの原料は動物の乳ですが、その製造方法や食味は多彩であり、学んでいくうちに生産される地域の歴史や食生活の背景を知ることができる興味深い発酵食品です。

発酵食品学科では、大学で学ぶ食品学や発酵食品学の専門知識を生かして、昨年度からチーズ検定（筆記試験）に挑戦しています。チーズ検定はNPO法人チーズプロフェッショナル協会（東京）が主催しており、全国主要都市40カ所で開催が実施され、今年度大分県では、本学にて行われました。結果は、1～3年生まで受験者23名

全員と発酵食品学科の藤原秀彦先生が合格しました。検定試験の後には同協会専務理事の柗田規夫氏による講習会が開かれ、充実した1日となりました。

なお、チーズ検定よりもさらに上級の「チーズプロフェッショナル」があります。これは、全国でも資格保持者は少なく（大分県では2名）、その多くは専門店や百貨店、レストランなどに勤務しています。発酵食品学科では、学内GP（優れた学習支援に対する補助）の支援を受けて、チーズプロフェッショナル受験対策として協会から講師を招聘し、大分県で味わうことのできない特殊なチーズのテイスティングを中心とした勉強会も行っています。

08

短期大学部
食物栄養科

家庭でも簡単に！ 減塩料理を提案

第4回健康展 ～これならできる!わが家の減塩～



さまざまな世代の方にアドバイスする貴重な経験となりました

11月15日ホルトホール大分にて、家庭で簡単に取り組める減塩の方法についてポスターの展示や発表会を行いました。ランチオンセミナーでは、学生が考案した減塩レシピ集を減塩弁当とともに無料で配り、レシピの工夫などを説明しました。学生は来場者との対話を通してコミュニケーションスキルを身に付けることができ、また大分県栄養士会の協力による食事相談を通じて、具体的な食事指導の在り方を学習することができました。

来場者からは「学生がとても熱心に関わりやすい説明をしてくれてよかった」「このような機会を望んでいた」など継続的な開催を強く望むうれしい声もありました。地域の方々への減塩活動は、栄養士を目指す学生の資質向上につながる良い機会となりました。

09 五穀豊穡を願う伝統行事に 先人たちの想いを体感

短期大学部
地域総合科学科

日田市天瀬町の「五馬くにち」を見学



百数十年の伝統を誇る秋祭り「五馬くにち」

「普段見ることのできない伝統の祭りを見ることでできてよかった。天瀬町は昨年から観光実習で度々訪問しているが、今回の祭りでより深く地域を理解できるようになり、親しみを感じるようになった。」と感想を寄せてくれました。

10月25日、地域総合科学科の日本学生と留学生が観光実習の一環で日田市天瀬町を訪れ、「五馬くにち」を見学しました。「五馬くにち」とは、天瀬町の五馬地区で江戸時代後期から実施されてきた五穀豊穡や無病息災を願う祭りで同地区にある本城、塚田、出口、五馬の計4集落で2日間ずつ開催されます。今回の祭りは194年目にあたり、同地区の神社を舞台に青壮年や子どもたちが祭を奉納しました。小学生から大人までの約50人が旧出口小学校体育館に集まり、本番に向けて練習に励んだそうです。学生の一人は

ふわり舞い上がった 凧に、大歓声！

第1回保育科凧揚げ大会



カラフルな立体凧も、ふわりと舞い上がりました

「普段見ることのできない伝統の祭りを見ることでできてよかった。天瀬町は昨年から観光実習で度々訪問しているが、今回の祭りでより深く地域を理解できるようになり、親しみを感じるようになった。」と感想を寄せてくれました。

“地域で支える” 高齢者福祉を提案

短期大学部
専攻科福祉専攻

「福祉・介護サービスチャレンジ教室」を開催



地域を支える介護福祉士の卵たち

10月17日に別府市上人西公民館にて、地域の方々を対象とした「福祉・介護サービスチャレンジ教室」を専攻科福祉専攻の学生と教員が開催しました。今回、高齢者福祉の知識を広め、地域全体の介護力の向上を目指して企画したものです。当日は、本科の修了生で介護事業所を運営する山本裕子氏と在学生が協働し、介護に関する知識や心身の機能低下を防ぐレクリエーションを披露しました。この日に向けて準備を進めてきた学生は、これまでの学びを実践することが参加者の笑顔に繋がることを実感し、介護福祉士として働くことへの責任と意義を改めて認識していました。

07 留学生が日本語スピーチ コンテストで3タイトル受賞

国際言語・文化
学科

第12回外国人による日本語スピーチコンテスト



「第12回外国人による日本語スピーチコンテスト」で受賞した、ユド・ディルシャンさん（左）とイ・スヨンさん（右）



本学の留学生が応援にかけつけました



「OITA学生提言フェスタ」で発表するイ・スヨンさん

10月15日に楊志館高等学校で行われた「第12回外国人による日本語スピーチコンテスト」において、国際言語・文化学科の李受妍（イ・スヨン 韓国）さんが優秀賞、ユド・ディルシャンさん（スリランカ）が優良賞を受賞しました。さらに11月15日にホルトホール大分で行われた「OITA学生提言フェスタ」の第1部スピーチコンテストにおいて、李受妍さんは最優秀賞を受賞しました。李さんは「埋もれていた夢」というタイトルで、留学当初の何事にも自信が持てなかった状態から、今の環境を前向きに受け入れられるようになった心境の変化を、Be

yourself! という短い英文をキーワードに流暢な英語と日本語で語りました。「夢を見つけた」のではなく、埋もれていた夢を見つけ出したという言葉が印象的でした。ディルシャンさんは「おしん」に会いたかった」というタイトルでスピーチ。スリランカで見たドラマ「おしん」の強い精神力と優しさに感動して留学を決意し、東日本大震災のニュースに見る日本人から「おしん」を感じたことや、昨夏、中津で行われた交流行事に参加したことも、ますます日本に親近感を持つきっかけになったと、熱く語っていました。これからも日本語教育研究センターを中心に、留学生への日本語教育を充実させていきたいと思っています。



FRC&KGBライブ

学園祭レポート 第69回 石垣祭 &

11月1日(土)

11月2日(日)

撮影にご協力いただいたみなさん、
ありがとうございました。
掲載できなかった方、ごめんなさい!!



ミス・ミスターコンテスト



WINNER!

短期大学部 初等教育科
平成26年度卒業 / MAP所属
加藤 剛
(熊本県 東海大付属熊本星翔高校出身)



文学部 史学・文化財学科 3年 / MAP所属
高尾 奈穂
(福岡県立青豊高校出身)



ベストカップルコンテスト

めじろもきたよ



国際弁論大会



お茶を
いかがですか?



書道研究パフォーマンス



カラオケ大会

SPECIAL GUEST



パンクブーブーさん



別府大学吹奏楽団

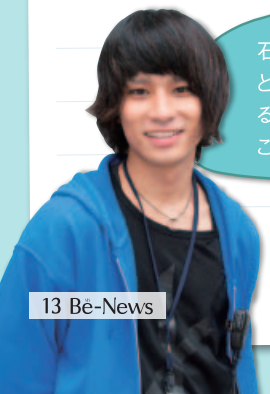
パンクブーブー
みにきたよ



爆笑お笑いライブ



24代文化会
10年ぶりの再会



第69回石垣祭実行委員長
文学部 人間関係学科 4年 / 器学部所属
中尾 祐扶 (佐賀県立三養基高校出身)

第22回 秋桜祭

11月22日(土)

一年で一番キャンパスが熱く燃える学園祭。今年も
別府キャンパスで「石垣祭」、大分キャンパスでは
「秋桜祭」を開催しました。両会場とも、ステージイ
ベントや出店、展示など多彩な企画が盛りだくさんで、
大勢の来場者でにぎわいました。



板野友美さん



茶道部による野点



ジューシーで
おいしいよ!



ヒッピーレ
最高!!



佐賀県国際バルーンフェスタより



春から
保育科です!



音楽博物館ヒットバレークラブ生演奏



ありのままのー!?

保育科ダンスパフォーマンス



九州アフリカンサファリ移動動物園



保育科音楽パフォーマンス



ソーラン

ソーラン



エルサ?と仲間たち

ダンスチーム「GEE」パフォーマンス(シオナース)



保育科
ソーラン節演舞



気合だー

各委員と学生が力を合わせて
作り上げました。ご協力・ご来場
いただいたみなさん、本当にあり
がとうございました。

第22回秋桜祭実行委員長
短期大学部 地域総合科学科 平成26年度卒業
内村 綾希 (大分県 大分高校出身)





文学部 人間関係学科 講師

石川 須美子

Sumiko Ishikawa



プロフィール

1976年山口県生まれ。2002年、九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻博士後期課程入学。福祉施設、学生相談などに臨床心理士として勤務。専門分野は障がい児・者心理学、臨床心理学。別府市特別支援連携協議会、別府市障がい者自立支援協議会の委員を務める。



お気に入りのディベアは、ソフトバンクホークスの限定品。

研究室訪問

学びのトビラ

Vol.02

別府大学の学びの最先端をレポートします。

自閉症スペクトラム障がい研究の生きがい ～ともに悩み、ともに歩む～

自閉症スペクトラム障がいについては、今まで数多くのドラマや映画で描かれています（『モーツァルトとクジラ』ものすごくうるさくて、ありえないほど近い『僕の歩く道』光るとともに）。自閉症スペクトラム障がい者役の演技が最も素晴らしいと感じた役者は、『レインマン』に出演したダスティン・ホフマンです。ダスティン・ホフマンは自閉症スペクトラム障がい者の役を演じるために、施設で自閉症スペクトラム障がい者と共に長い間一緒に生活をしたそうです。ダスティン・ホフマンが演じた自閉症スペクトラム障がい者役は身体の動かし方、視線、言葉の抑揚、スポンの丈に至るまで、非常に特徴を掴んでいると思います。ま

ダスティン・ホフマンの名演技

私が専門にしているのは、自閉症スペクトラム障がい（「自閉症」「アスペルガー」と呼ばれる人々）の心理です。自閉症スペクトラム障がいとは、「コミュニケーションをとることが苦手」「夢中になり止められなくなる」「こだわりがある」といった特性をもつ人々のことです。私は大学教員として講義などしていますが、臨床心理士として自閉症スペクトラム障がいの人々のカウンセリングもしています。自閉症スペクトラム障がいの人々とともに悩み、ともに歩みを進めることに、私は「生きがい」を感じています。

自閉症スペクトラム障がいの世界

どっぷりハマって、
大学時代を豊かに

私に最近、「マツコの知らない世界」というテレビ番組に、ハマっています。その番組では、「天気図」「プリン」「トイレットペーパー」など、それぞれの分野にハマっている人々が登場し、マツコデラックスさんに知識やそのものを愛する熱い思いを語ります。私自身、トイレットペーパーの原材料や質の違いに特に関心はないのですが、夢中になって語る人の姿に思わず引き込まれ、その人々の世界観に心が奪われます。

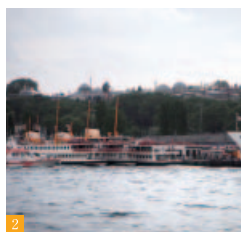
私に最近、「マツコの知らない世界」というテレビ番組に、ハマっています。その番組では、「天気図」「プリン」「トイレットペーパー」など、それぞれの分野にハマっている人々が登場し、マツコデラックスさんに知識やそのものを愛する熱い思いを語ります。私自身、トイレットペーパーの原材料や質の違いに特に関心はないのですが、夢中になって語る人の姿に思わず引き込まれ、その人々の世界観に心が奪われます。

ハマるゝことのススメ

～ Other sides of Sumiko Ishikawa ～



1 好きな場所1位は沖縄。止まることのない時間の中で、歩みを止めて心を落ち着かせることができる場所です。2 好きな場所2位はトルコ。多様性のある世界観が魅力です。3 高校時代からの親友が陶芸家に。彼女の作品は私にとって大切なものです。4 今宮選手（ソフトバンクホークス）のサインを野球部の学生がプレゼントしてくれました。



います。たとえば、その「何か」が社会的には価値がないものだとしても…です。どっぷりとハマれる、素晴らしい時間が大学にはあると思っています。ただ、漫然と時を過ごすのではなく、何かにどっぷりとハマって、大学生活を彩って欲しいと思っています。



思い出Song

『3月9日』
レミオロメン

理由

歌詞に共感できて、
いいと思ったから。

思い出Song

『告白』
FUNKY MONKEY BABYS

理由

付き合いたての頃、
歌ってくれていたから。

食物栄養学部 発酵食品学科
2年 河野 尚子
(大分県立田日高校出身)

文学部 人間関係学科
3年 梶原 健護
(熊本県立天草高校出身)

キャンパスボイス

Campus Voice

ちょっと、聞かせて♪ 別大生に突撃インタビュー

思い出Song (出会いと別れ編)

撮影 / 写真部

思い出Song

『靴紐』
高橋 優

理由

出会いと別れを靴紐で
表現した歌詞がとても
好きです。

文学部 史学・文化財学科
4年 佐藤 亜斗夢
(宮崎県立延岡星雲高校出身)

短期大学部 食物栄養科
2年 矢野 ひかる
(大分県立杵築高校出身)

思い出Song

『笑顔』
いきものがかり

理由

嫌なことも嬉しいことも
全部笑って過ごしたい。
親友や大切な人に、もっともっと
笑顔になってほしいから。

思い出Song

『さよなら大好きな人』
花*花

理由

歌詞が良くて
泣ける!!

短期大学部 保育科
2年 玉那覇 葉月
(沖縄県立知念高校出身)

思い出Song

『案山子』
さだまさし

理由

日本に来たばかりの頃、
この曲を聞いて、両親も
この曲のように私のことを
心配しているのだろうな
と思ったから。

文学部 国際言語・文化学科
4年 ジュド デイルシャン
(スリランカ ST.MARY'S COLLEGE
NEGOMBO出身)

思い出Song

『川の流れるように』
美空 ひばり

理由

故郷の古き良き町並みと
隣人との交流を思い出します。
たくましく生きる昭和の人たち
の姿から元気をもらえます。

短期大学部 副学長
仲嶺 まり子

思い出Song

『仲間』
ケツメイシ

理由

親しい仲間と離れた後に、
勇気づけられたから。

短期大学部 専攻科初等教育専攻
2年 川崎 亮介
(佐賀県立唐津東高校出身)

まっすぐな想いで夢を実現！ 念願の小学校教員採用試験に現役合格

本学専攻科より
小学校教員採用試験に
15名合格！

※平成26年度実績。既卒者含む

入学当初から、小学校教員を目指し、初等教育科から専攻科へ進学。
持ち前の芯の強さと、なげなたで鍛えた
精神力で夢を実現しました。

教員になろうと思ったのはいつですか？

小2の頃になげなたを始めたのですが、中学校にあがると、小学生の指導をするようになりました。子どもたちとの練習がとても楽しく、将来は小学校の先生になりたいと思うようになりました。なげなたは、短大入学後も続け、1年の夏に全国大会で優勝^(※)を果たしました。もっと強くなりたいと思いましたが、教員への夢を叶えたかったので、部活を辞め、勉強に専念しました。

新卒で採用されるのは、とても難しいことです。 どんな試験対策をしたのですか？

通学途中の電車の中や休み時間も、参考書を開き、空き時間を有効に使うよう心掛けていました。1次試験合格から2次試験までは期間が短かったのですが、2次試験対策を先生にみっちり指導していただきました。試験前には、毎日放課後、学校に残って勉強をしました。同じ夢に向かう仲間がいたことも、心の励みになりました。面接では、自分の好きななげなたの経験を生かし、自信をもって質問に答えることができました。

専攻科で学んでよかったことは？

九州では唯一、教育マイスタープロジェクトを実施しており、現場で働くベテラン教員のもと、長期間(30日)の教育実習を受けることができます。実践的な指導をしていただき、担任になった時のやりがいや大変さを知ることができました。

将来は、どんな先生になりたいですか？

教壇に立つのが苦手です(笑)。上から目線で子どもたちに“教える”のではなく、子どもたちと一緒に勉強をしていきたいです。子どもたちの心に寄り添って、児童一人ひとりを大切に先生になりたいです。また、へき地教育にも興味があるので、地方や小規模校にも赴任してみたいです。

小学校教員を目指す後輩に向けて アドバイスををお願いします

初教専攻科では経験豊富な先生方が、きめ細かい指導してくれます。日々の講義を大切にして、課題に取り組むことで、さらに理解が深まります。また、小学校の学童保育のアルバイトをしていたので、教育実習の時、戸惑うことなく子どもたちと接することができました。小学生と触れ合う機会を積極的に持つこともおすすめです。

※第50回全日本学生なげなた選手権大会で優勝。
その功績が認められ、大分県民栄誉賞も受賞。



全日本なげなた大会で優勝



ミュージックフェスティバルは専攻科の思い出の一つ

難関国家公務員試験、 国税専門官試験に合格！

高校卒業後、自動車販売会社へ就職した松村さん。
勉強し続けることの大切さを実感し、大学進学を決意。
税理士を目指す中で、「国税専門官」を知り、難関試験にチャレンジしました。

国際経営学部に入學したきっかけは？

高校卒業後、就職した時、人としゃべることが苦手でした。しかし、営業の職種柄、人と話すことの苦手意識も自分なりに克服ができ、また上司が勉強熱心な方だったので、勉強することの大切さを学びました。もっと仕事のための知識を身に付けたいと思ったのが大学進学の原因です。

国際経営学部ではどんな勉強をしましたか？

会計・税理士コースなので、1、2年で会計学、3、4年のゼミでは税法を主に学びました。税理士の先生から税理の知識は当たり前で、経営についてアイデアを出さないと仕事にならないと言われたこともあり、経営についても勉強しました。別府大学は先生との距離が近いので、他の先生方にも話を聞きやすい環境でした。経営は、儲けることも必要ですが、人とのつながりが強くなる方法を考えるのが大切だと思います。

国税専門官を受けようと決めた理由は？

最初は会計事務所への就職を考えていましたが、国税専門官は働きながら、税務大学校で勉強できるとアドバイスをくれました。卒業後も、さらに勉強できる環境があるというのが理由の一つですが、普段接することができない企業のトップやリーダーに出会えることが最大の魅力です。人との出会いが自分の成長にもつながると期待しています。

公務員試験の勉強方法は？

ゼミで税務署の見学に行った時、そこで、若い職員の方たちに勉強方法を教えてもらいました。やはり、現場で仕事をしている方に、勉強方法を聞くのが一番です。3年の後半から一日平均6時間位勉強しました。面接は場馴れが必要なので、友達に面接をしてもらったり、面接試験を受けた友達に体験談を聞きました。

どんな大学生活を送りましたか？

社会人入学だったので、最初は不安でしたが、年齢が違う分、いろんな仲間と付き合うことができました。一番良かったことは、大学の仲間と地元の同級生仲間が仲良くなって、一緒にフットサルのグループを続けていることです。年齢の違う者同士が付き合うことでお互い刺激を受けています。

後輩へのアドバイスををお願いします。

就職をする際は、自分は何をしている時が一番楽しいか考えてみてください。自分がやりたいことはきちんと調べて、家族の反対などあるかもしれませんが、説明してわかってもらうことが大事です。



指導教員の水野先生は国税のスペシャリスト。専門知識から処世術!?まで、叩き込まれたそう



松村さんオススメ。国税専門官を目指す方は、必須の一冊



剣道部



剣道場に掲げられた、部訓「破天荒」の旗

学生からのひとこと

男子部員が入ってきて、活気が出てきました。強くなるためには、チームワークが大切。部員同士のコミュニケーションを深め、先輩たちが築いた伝統や成績を超えることを目標にがんばっています。目指すは日本一！



文学部 人間関係学科 4年
小森 あかね
(佐賀県 龍谷高校出身)
剣道部主将

朝の静かな学内に、剣道場から威勢のいい掛け声と竹刀を打ち合う音が響きます。
別府大学の剣道部は昭和55年に誕生。強化部に指定され、全国の強豪校から優秀な選手が集まっています。これまで数々の輝かしい戦績を残しており、昨年は福岡市で開催された「第37回九州女子学生剣道大会」の団体戦で準優勝を果たし、全国大会に進出するなど、各地の試合で別府大学の實力を見せています。

新たな記録への挑戦

近年、女子剣道部として活動していましたが、昨年からは男子部員が入部し、男女合同で稽古を行っています。また、今年度から剣道部専用の男子寮を完備。剣道に集中する環境の中、実力アップが期待されています。
部訓に掲げる「破天荒」は、前人未だのことをやり遂げるという意味。先輩たちが達成できなかったことを、今の部員がやり遂げていこうと、さらなる高みを目指し、日々の稽古に気合が入ります。

バターを使わない 梨ジャムのロールケーキ



Point

お好みのジャムでアレンジできます。母の日にはバラジャムがおすす
め！生地を高い位置から流し込むと、空気が抜けて冷ました時に、生地がちみみません。

レシピ考案／立松研究室(短期大学部食物栄養科)

材 料

シフォン生地(天板27cm)

卵 M4個
薄力粉 70g
グラニュー糖 65g

サラダ油 30g
水 30g

クリーム

生クリーム 150g
グラニュー糖 10g
練乳 15g

ブランデー(ラム) 3g
粉砂糖 適量
梨ジャム 適量

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生からのひとこと

私は宮崎県出身ですが、みんなでたくさんのスポットへ出掛け、かなり大分に詳しくなりました。(笑)学部・学科の垣根を越えて多くの人と仲良くなれることで、世界が広がります。毎週の部会が楽しみです。ぜひぜひ！



食物栄養科学部 食物栄養学科 3年
矢野 真由
(宮崎県立延岡星雲高校出身)
弥次喜多倶楽部部長



力作パンフ「弥次喜多珍道中」

弥次喜多倶楽部



いろんな景色を見てみたい！

サークル名の「弥次喜多」とは、今から200年ほど前に誕生した十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」(江戸から伊勢神宮、大坂、京都への旅物語)の主人公、弥次郎兵衛と喜多八が由来。
現在男子4名、女子14名と男2人旅の弥次さん喜多さんがうらやむ女子率の本サークルは、夏は蛍を探しに安心院、佐伯の瀬会公園でキャンプ、冬には毎年恒例の熊本黒川温泉へ出掛けるなど、旅観光を満喫しています。
そして、春に行われるさつき祭(文化

系サークルのイベント)に合わせて、弥次喜多珍道中というパンフレットを作成。ソフトクリーム編、大食い編など毎回テーマを決め、県内各地を取材。観光ガイド顔負けの1冊を上梓しています。
これら活動には事前の下調べや旅程の作成など、意外と時間や労力がかかりますが大変ですが、先輩後輩みんなで意見を出し合い、仲良く楽しく活動中。
次はどんな景色を見に行くのか、楽しみです。

別大生の御用達

別大周辺のちょっといいお店



このカウンターに座れば人生が変わる!? 豪快な殿の人柄に魅かれる常連客が多数



さむらい

別府市中須賀元町5-1
0977-66-3406

■営業時間 18:00~24:00 ■営業日 金・土(※日曜日は予約のみ)



定番のやきとりのほか、不動の人気なのが「さむらいビザ」。生地とソースも手作り!

さむらいー。その名前の響きは、別大OBたちに懐かしい思い出を呼び起こさせるのではないだろうか。別府大学通りと交差する旧国道沿いに、週末の夕方になると赤い提灯が灯る居酒屋、それが今回ご紹介する「さむらい」です。新歓コンパや打ち上げなど、別府大学の学生や教職員が代々お世話になってきました。店主の清松庄之介さんは、空手や居合道など武道もたしなむ、まさにサムライ。洪さを湛えた風貌から、殿の愛称で親しまれています。奥さんの、姫とともに、この場所にお店を構えて35年になるそうです。
清松さんは、20代の頃、自転車です世界一周をした経験の持ち主。各地で仕事をしながらの旅は5年にも及んだそう。そんな豊富な人生経験と幅広い知識をもった殿の豪快な話は、若い学生に刺激を与えること間違いなし! 悩み多き学生のみなさんは、さむらいのカウンターへ。殿との出会いが、あなたの人生を拓くかも!

殿と姫がいる居酒屋
やきとりさむらい



一生の思い出を よりよいものに

短期大学部 地域総合科学科 平成21年度卒業
大分県立別府青山高校出身

🏠 小柳 朋子さん

(杉乃井ホテル&リゾート株式会社 勤務)

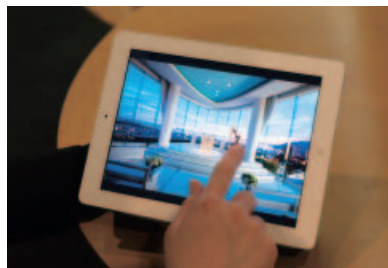
「ホテルで働く人ってカッコいいな。高校生の時、友人らと別府杉乃井ホテルのブライダルフェアでプロのホテルマンの接客に魅了された小柳さん。将来はホテルで働きたいと観光学や語学などを幅広く学べる短大地域総合科学科へ進学しました。学生時代の1番の思い出は秋桜祭(大分校の学園祭)の実行委員長をしたこと。いまだにもっと上手くできたのではないかと振り返ることもしばしば。それは今の仕事での経験が視野を広げてくれたからだと言ってくれました。そんな小柳さんの職場は憧れだった別

府杉乃井ホテル。入社当初はレストランで勤務し、2年半ほど前から現在のブライダル部門へ配属となり、ウェディングプランナーに。ただ最初の頃は、何もできない自分の不甲斐なさや毎日ぐちゃぐちゃな涙を流し、自分に向いてないのではと、転職を考えたほど落ち込んだそうです。そんな時、先輩から「好きな仕事をする人生より、就いた仕事を好きになる人生の方が幸せだよ」と、アドバイスをもらい、逃げずに向き合うことを決意。今では103組の結婚式に携わり、プランナーとして指名されるまでになりました。

そんな彼女、「誠実にお客様と向き合いたい」という思いで日々邁進中。「お客様にとつて結婚式は一生の思い出になるセレモニー。式の準備はゼロからのスタートなので、打ち合わせを重ね、不安なく式当日を迎えられるようにと意識しています」とのこと。取材時、偶然にもクライアントが訪れ、仕事する彼女を拝見することができましたが、そこにはクライアントと確かな信頼関係を築いているウェディングプランナーがいました。続けたからこそ、今がある。あきらめなかった彼女の強さが印象的でした。



何でも相談できる関係をお客様と築いています



打ち合わせ時の相棒。プランの提案には不可欠

失敗を恐れず、常に前を向いて 営業マンは管理栄養士

食物栄養科学部 食物栄養学科 平成23年度卒業
大分県立大分豊府高校出身

🏠 九島 崇さん

(株式会社クリニコ 勤務)

高校時代は甲子園を目指す高校球児だった九島崇さん。しかし、高校3年間でその夢は叶いませんでした。卒業後の進路を模索するなか、本学のオープンキャンパスで出会ったのが食物栄養学科の平川史子先生でした。平川先生は応用栄養学が専門で、プロ野球球団の管理栄養士を務めていた経験があります。九島さんは、スポーツと栄養学との結びつきに興味を持ち、食物栄養学科へ入学しました。在学中は高校卓球部の栄養調査や小学生女子サッカーチームとの調理実習などに積極的に参加するなど、

充実した4年間を過ごしたそうです。病院実習で高齢者向けの医療用食品(介護食、嚥下食、流動食、医療食)に、ニーズの高まりを感じ、卒業後は、森永乳業グループの病態栄養部門である(株)クリニコへ就職。現在、北九州エリアを担当し、病院や高齢者福祉施設での営業を行っています。栄養学を学んだ男性社員は珍しく、管理栄養士の資格を持つていることが強みになっています。持ち前のガッツと専門知識をもっていることで、現場の管理栄養士や看護師から信頼を得ており、昨年は入社2年目で

全国1位の営業成績を収めたそうです。「訪問先では、小さなことでもいいのでクライアントが抱えている問題を見つけて出し、解決のお手伝いをしたいと思っています。」20代は常に前を向き、失敗を恐れずに経験を積み重ね、そして30代では憧れの先輩たちのようなリーダーになることを目標にしています。「大学は私の原点。帰省の際にはよく立ち寄っています。いつでもあたたかく迎えてもらえる場所があるのはうれしいですね。」4年間の経験とつながりが、九島さんの前に進む原動力になっています。



九島さんが扱っている医療用食品



営業成績1位のごほうびにアメリカの研究会へ参加



管理栄養士の試験前、気合を入れに(1)クラスメイトと屋久島へ

日高理事長 退任インタビュー

別府大学の地域での役割、ますます重要に



退任の思いを語る日高紘一郎理事長

3月いっぱいまで学校法人別府大学理事長の職を退任される日高紘一郎理事長。このほど行ったインタビューに対し、別府大学、そして学生たちへの思いを語られました。

「全国的に地方創生が見直されようとしている今こそ、地域の大学の役割がますます重要になるうと思っています。大学が地域社会と二層の関わりを持ち、地域社会に一段と貢献をする必要がある。」と日高理事長が熱く語るように、別府大学は昨年から今年にかけて、大分県や各市町村と教育や文化、産業、観光など多分野にわたって連携・協力する協定を締結し、新たな地域貢献の役割を担おうとしています。

また、日高理事長は学生らに対して「大学は生涯の友を見つけることができる場。お互いが切磋琢磨できるような一生の友を見つけてください。」と、メッセージを送られました。「卒業しても別府大学を基軸にして生活してほしい。何かあったらいつでも

も恩師に相談してください。」とも語られています。

日高理事長は宮崎県の出身で、京都大学を卒業後、旧文部省に勤務され、97年に法人常任理事兼別府大学事務局長として着任し、その後、法人副理事長などを経て08年11月から理事長として法人の運営にご尽力されるときにも、別府大学などの機構改革の舵を取ってこられました。

退任後は「しばらく体を休め、故郷の宮崎に行つて旧友とも会いたい。」と語る日高理事長。しかし、温泉があつて食べ物もうまい別府には、すっかり魅了されたとのこと。で、「(別府以外の)よそに住む気はしません。」ときっぱり。

今後は学園附属の明豊高校硬式野球部の名誉監督として、甲子園出場への支援をしながら、別府大学の成長を見守る地域のステークホルダーとして、重要な役割を演じてくれることを期待しています。

INFORMATION



左から、段上達雄(文学部教授)、飯沼賢司(文学部教授)、後藤宗俊(別府大学名誉教授)、小池史哲氏(甘木歴史資料館副館長)、平田豊弘氏(天草市世界遺産推進室長)、金谷俊樹(別府大学文化財研究所客員研究員)

「九州学」シンポジウム報告
別府大学から
九州学を提唱！

屋久島、沖縄の世界遺産、山本作兵衛の世界記憶遺産、阿蘇、国東・宇佐の世界農業遺産など、今、九州は注目を集めており、今後は九州全体を一つの集合体として国内外にアピールすることが求められています。

別府大学では、長年、九州の歴史と文化の研究・発信を行っており、本学の学びの基盤は「九州(沖縄・山口含む)」にあります。また、本学には食や観光を専門にする学部もあることから、大学の総力を挙げ、そして九州各地のネットワークを結集し、「九州学」を提唱します。その旗揚げとして、1月10日に「九州学とはなにか」をテーマにシンポジウムを開催しました。当日は、一般の方や学生、教職員など約250名が参加。九州の多様性が語り合われ、新しい九州像を模索していくことになりました。今後の「九州学」に乞うご期待！

表紙の写真



- ①白川優太 文学部 史学・文化財学科 平成26年度卒(山口県 高川学園高校出身)
- ②加藤眞樹 文学部 史学・文化財学科 平成26年度卒(宮崎県立日南高校出身)
- ③高橋義樹 食物栄養科学部 発酵食品学科 4年(大分県 昭学園高校出身)
- ④都甲花織 食物栄養科学部 発酵食品学科 平成26年度卒(福岡県立翔翔館中等教育学校出身)
- ⑤村田奈己 食物栄養科学部 発酵食品学科 平成26年度卒(大分県立竹田高校出身)

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82
TEL:0977-67-0101 E-mail:koho@nm.beppu-u.ac.jp

編集後記

たわねに実った棚田ストーリー
春号なのに、なぜ稲の収穫特集するのか。今回の特集記事を読んで、そう感じた方も少なくなかったかもしれません。答えは簡単。昨年の秋号が出たあとに夢米棚田チームの話題が相次いだからです。しかし、夢米棚田チームの学生たちの生き生きとしたこの笑顔。年間を通じての彼らの活動がこのような素晴らしいストーリーをたわねに実らせたのです。広報室は春夏秋冬関係なく、学生たちの笑顔を今後も追いかけて、ホットな話題を取り上げていきたいと考えています。(あ)

国際交流



母国に「別府日本語学校」設立

留学生 スチッタ・グラセカラ

(大学院文学研究科日本語・日本文学専攻博士後期課程3年)



別府日本語学校の教室で



日本語を楽しく学んでいます

「別府日本語学校」。

2011年9月、スリランカ中西部の町、チラウに誕生した日本語学校の名前です。創設者は現在、別府大学大学院文学研究科後期博士課程に籍を置くスリランカ人留学生、スチッタ・グラセカラさんです。

日本に来て別府大学文学部国文科(当時)に入学したのは2004年4月のこと。「入学当初は授業についていくことに、苦勞をしました。一緒に入学した友人の中には、同じように苦勞し帰国した人もいて、せっかく留学したのに、志半ばで帰るのはもったいないと感じていました」。自身や友人が苦勞した経験から、日本へ留学を希望するスリランカ人の役に立ちたいと、母国に日本語学校の設立を決意したそうです。

スチッタさんは当時、日本のアルバイトで貯めたお金などをもとに学校を設立。これまでに46人が修了して別府大学別科日本語課程に進学、現在は3人が別府大学で学んでいます。

「内戦が終わって平和が訪れると多くの日本企業が進出してきました。そうすると日本のビジネスや技術を学ぶため日本語をマスターしたいと考える者も急増しました」。スチッタさん自身、修士論文は「スリランカ人日本語学習者の文法習得に関する研究」でした。これにさらに磨きをかけ、スリランカで話されているシンハラ語と日本語の研究を進めているとのこと。

「別府日本語学校」という名称は「別府に長く住み、別府の人々に育ててもらった恩返しの意味でつけました」。将来の夢は「学校に寮を併設し、スリランカ全土から学生を集めること」。日本とスリランカを行き来しながら、忙しい日々を送るスチッタさん。「これからもスリランカと日本のためになることを続けていきたい」と意欲満々です。

輪になって踊ればみんな友だち

国際交流ゆかたの夕べ

別府大学では、毎年秋の入学式後、新たに別府大学の学生になった外国人留学生が参加する恒例行事「国際交流ゆかたの夕べ」があります。その行事は名前から連想される通り、留学生がゆかたを着て、地域の方々や附属幼稚園の園児、教職員との交流会兼歓迎会として開催しています。

留学生はゆかたを着付けてもらい、雪駄を履き、別府音頭では前の人を見よう見まねしたり、振り付けを地域・地区自治会の方々に手ほどきを受けながら踊ったりと終始ご満悦。

また抽選会で景品が当たったり、かき氷、わたがし、ボン菓子振る舞われたりと、学内は盆踊りと縁日とが一緒に来た雰囲気でした。

来日したばかりの留学生にとって“ゆかた・太鼓・ちょうちん・屋台”は予備知識として持っていた日本文化だけに、実際に触れることができ、みんなとても楽しそうに夕暮れ時を過ごしていました。

